

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

| 科目名 | | 科目コード | 単位数 | 開講期 |
|---------------------------------|---------|----------------|------|------|
| 知的財産評価実務特論 | | Z 114 | 1 単位 | 2 学期 |
| Intellectual Property Valuation | | | | |
| 科目分野 | | 課程領域 | | |
| 知的財産マネジメント | | 知的財産マネジメント専門科目 | | |
| 担当教員名 | メールアドレス | 連絡方法 / オフィスアワー | | |
| 小林 誠 | - | メールアポイントにて随時 | | |

関連している科目(履修推奨科目)

| | | |
|----------|---------------|----------|
| 知的財産契約特論 | 知的財産戦略実務特論1、2 | 会計・財務要論1 |
|----------|---------------|----------|

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

経営・ビジネス・財務会計的観点やM&A実務の観点からの知的財産価値評価の実務を詳解する。
 具体的には、知的財産の価値評価について実務的かつ実践的な内容に触れながら、評価理論と基礎的な評価手法を体系的に修得することを目的とする。さらに、知的財産価値評価の実務を中心としたケーススタディを紹介し、受講者によるグループ討議や簡易的な価値評価(シミュレーション)を実際に体験することで、より理解を深める。

- 基礎: 知的財産価値評価の局面、知的財産価値評価の理論および手法
- 演習: ケーススタディを通じた、知的財産デューデリジェンス、および企業価値/知的財産価値シミュレーションの実施
- 応用: M&Aによる知的財産の獲得と事業売却、ライセンス価値とロイヤリティ料率、侵害訴訟時の知的財産価値評価、グローバル知財マネジメント、知的財産に関する会計上の論点、知的財産に関する税務上の論点

到達(修得)目標

知的財産価値評価の基礎を理解し、体系的な知識および手法を修得する。
 知的財産の価値評価が実施される局面、実務上用いられている評価手法を理解すると共に、最近の実務課題を認識する。

受講対象者

経営企画担当者、知財戦略担当者、コンサルタントなど。

履修上の注意事項やアドバイス

財務会計の知識は必須ではないが、事前学習として、「会計・財務要論1」を履修しておくことを推奨する。
 同様に知財関係の知識も必須ではないが、特に知財業務に就いていない方は、事前にある程度修得しておくよう1学期の科目にて学習し、本科目に臨んでいただきたい。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

| 知識領域 (Y軸) | | ヒューマンパワー (Z軸) | | 思考プロセス (X軸) | |
|--------------------|---|----------------|---|--------------|---|
| Y1: 基盤法令・テクノロジー | | Z1: 問題発見力 | ○ | X1: 企画 | |
| Y2: 応用法令・実務・テクノロジー | ○ | Z2: 独創力 | | X2: 構想 | ○ |
| Y3: グローバル法令・実務 | ○ | Z3: 問題解決力 | ○ | X3: 調査・分析 | ○ |
| Y4: マネジメント | ○ | Z4: プレゼンテーション力 | | X4: 設計・開発 | |
| Y5: 戦略立案 | | Z5: 変革推進力 | | X5: 変革 | |
| Y6: 標準化 | | Z6: コミュニケーション力 | ○ | X6: 導入・運用 | |
| | | Z7: リーダーシップ力 | | X7: 評価・検証 | ○ |
| | | Z8: ネゴシエーション力 | ○ | X8: リーガルマインド | |
| | | Z9: オーナーシップ力 | | X9: ライフサイクル | |

プラクティカム

| イベント / ケース | | 教育技法 | マテリアル / ツール |
|------------|---------------|----------------|-------------|
| 1 | 知的財産デューデリジェンス | グループ討議 | ケーススタディ資料 |
| 2 | 企業価値評価 | グループ討議 | ケーススタディ資料 |
| 3 | 企業価値評価 | 企業価値シミュレーション | エクセル |
| 4 | 知的財産価値評価 | グループ討議 | ケーススタディ資料 |
| 5 | 知的財産価値評価 | 知的財産価値シミュレーション | エクセル |

| 評価の方法 | | |
|---------------|-------|--|
| (総合評価項目と割合) | 評価の要点 | |
| 出席・授業への貢献度 | 40% | 毎回、事務室より出席簿を準備する。授業内での討議及び的確な質疑応答においては、その内容を評価する。プラクティカムシートは授業内にて行う演習課題の評価となる。また、最終レポートは、授業全体の理解度を確認するものとなる。 |
| プラクティカム・シート評価 | 30% | |
| 最終レポート | 30% | |
| 合計 | 100% | |

| テキスト・参考図書など | | 備考 |
|--|---|-------------|
| ※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください | | |
| テキスト (購入が必要) | 特に指定しない。 | 毎回、資料を配布する。 |
| 参考図書 (購入は任意・講師推奨) | 「知的財産デューデリジェンスの実務(第3版)」(中央経済社)2016年 「知財戦略のススメ コモディティ化する時代に競争優位を築く」(日経BP社)2016年 | |
| 参考URL | | |
| 適宜紹介予定 | | |

| コマ | 学習内容 | 事前準備・課題 | 担当者 | 時間 |
|----|--|-------------------------------|------|-----|
| 1 | 知的財産価値評価の概要 知的財産価値評価が必要となる局面 経営・事業戦略と知的財産戦略 経営デザインシート | 経営・戦略の基礎 財務・会計の基礎 知財の基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント 特になし | | | |
| 2 | 知的財産デューデリジェンス(1)－基礎・理論 ・デスクトップデューデリジェンスとオンサイトデューデリジェンス ・知的財産の市場性評価と事業性評価 | 知的財産DDの基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント 特になし | | | |
| 3 | 知的財産デューデリジェンス(2)－応用・実務 ・事例紹介 ・ケーススタディ(演習) | 知的財産DDの基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント ケーススタディによる簡易知財デューデリジェンスの実施 | | | |
| 4 | 企業価値評価(1)－基礎・理論 ・貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書 ・コストアプローチ、マーケットアプローチ、インカムアプローチ | 企業価値評価の基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント 特になし | | | |
| 5 | 企業価値評価(2)－応用・実務 ・事例紹介 ・ケーススタディ(演習) | 企業価値評価の基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント エクセルを用いた簡易シミュレーションの実施 | | | |
| 6 | 知的財産価値評価(1)－基礎・理論 ・免除ロイヤルティ法、超過収益法、利益分割法 ・ライセンス価値とロイヤリティ料率 | 知財価値評価の基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント 特になし | | | |
| 7 | 知的財産価値評価(2)－応用・実務 ・事例紹介 ・ケーススタディ(演習) | 知財価値評価の基礎 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント エクセルを用いた簡易シミュレーションの実施 | | | |
| 8 | 近時の知的財産を取り巻く環境変化 ・M&Aによる知的財産の獲得と事業売却 ・侵害訴訟時の知的財産価値評価 ・グローバル知的財産マネジメント ・知的財産に関する会計上の論点(Purchase Price Allocation等) ・知的財産に関する税務上の論点(移転価格税制、BEPS行動計画等) | 最近の知財関連のメディア報道 | 小林 誠 | 90分 |
| | イベント 特になし | | | |

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
 ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。